

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 252 号	氏名	西 順也
学位審査委員	主 査	中村 純三	
	副 査	中山 守雄	
	副 査	中嶋 幹郎	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、安全かつ効率的な遺伝子導入法を確立するために、最も安全な遺伝子ベクターである plasmid DNA (pDNA) を用いた胃選択的な in vivo 遺伝子導入法を開発し、加えて遺伝子導入機構を解明するものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>実験動物としてマウスを用い、pDNA の胃漿膜表面滴下による胃選択的遺伝子導入、胃漿膜表面における pDNA の取り込み機構、pDNA による胃漿膜表面への遺伝子導入における細胞内シグナル伝達の役割について解析したものであり、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、pDNA を胃漿膜表面に滴下投与することにより、胃選択的な遺伝子導入が可能であり、投与量および投与容量を適切に減じることで、その選択性を向上させることが可能であることを見出した。また、pDNA による胃漿膜表面への遺伝子導入における取り込み機構に関して、動物レベルにおいて基礎的知見を得て、今後の遺伝子治療研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は遺伝子治療研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (臨床薬学) の学位に値するものと判断した。</p>			